ふるさと研究ニュース

2010 年 7 月 第 13 号
所沢市生涯学習推進センター
ふるさと研究グループ

「ふるさと研究活動」は、子どもからおとなまで、幅広い世代の市民のみなさんの参加により、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化・産業など、様々な分野の資料や情報を集め、調査・研究を深めてゆく活動です。「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしております。

3階企画展示室夏季展示　　**平成22年7月30日(金)～8月29日(日)**

月曜祝日を除く
9時～17時

身近な虫と鳥たち展 withハチの巣博覧会

協力：埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター

今年は国連が定める『国際生物多様性年』です。すぐに名前が思いつく動植物だけでなく、受粉を助ける昆虫や土中の微生物など、人間の暮らしはさまざまな生物に支えられています。その一方で、そんな「生物多様性」に危機をもたらしているのも、開発や乱獲など人間の営みです。

「生物多様性」について考えることは、身近な生き物を意識することからはじまります。夏の企画展示では、市内や周辺地域で見られる昆虫や野鳥の写真や標本等を展示し、身近な生き物や自然に親しんでいただくことを目的にしています。

あわせて、色々なハチの巣について、種類による違いや造形力、巣の成長過程などを、実物資料と写真で紹介します。

ハチの巣博覧会

- キイロスズメバチ
- コガタスズメバチ
- ヒメスズメバチ
- キアシナガバチ
- コアシナガバチ
- フタモンアシナガバチ
- オオカバフスジドロバチ
- オオフタオビドロバチ
- ルリジガバチ　　その他

‥‥花や樹液に集まる蝶・ハチ・甲虫、草むらのバッタなど、虫の仲間もいっぱい‥‥身近な野鳥は、スズメやカラスだけ？気づけば、いろいろな鳥たち‥‥枯れ木をかじって唾液とまぜて作る巣、泥で作る巣。ハチの造形って、すごい！‥‥

７月にご覧いただける展示など

場　所	内　容
常設展示室	所沢の歴史・民俗・自然など
メモリアルルーム	並木東小学校の「記憶」
南棟3階階段脇掲示板　**ミニ写真展**	**松井地区の移り変わり　その２** 7月11日(日)まで **三ヶ島地区の移り変わり** 7月13日(火)から
3階中央棟廊下壁　**今月の航空写真**	旧ユネスコ村周辺　8月31日(火)まで

所沢市生涯学習推進センター　ふるさと研究グループ
Tel:04-2991-0308　Fax:04-2991-0309　Mail:b29910308@city.tokorozawa.saitama.jp

ふるさと研究自然だより

その３　これまでのセンター　鳥　だより

建物の少ない米軍通信基地と緑豊かな航空公園にはさまれた当センターでは、日常的に多くの鳥の姿を見かけます。図鑑を手に首を捻ることもしばしばな日々の様子を、少しだけご紹介します。

平成21年某月某日朝　センター南棟の非常階段（４階）に、事切れた鳥の躯発見。図鑑と引き比べた結果、ホオジロの仲間「カシラダカ」である模様。窓ガラスにぶつかったか、他の猛禽類に襲われたか、合掌。

平成21年12月某日　4階と3階の間の階段から見える中央棟屋上のフェンスに、ハヤブサの仲間「チョウゲンボウ」（写真→）が飛来。窓ガラス越しのためか目が合って？も逃げず、いつ飛び去るかまだ居るかと意味もなく階段を上り下りする者多数。

平成22年6月某日　カッコウが賑やかですよ、と1階事務室から連絡あり。グラウンドに出てひとしきり捜索の結果、北棟屋上にちょこんと止まった1羽をようやく発見。

平成22年6月某日午後　梅雨の晴れ間の空の下、センター敷地北側のプール（旧並木東小学校時代の25mプールです）で、カルガモ７羽がほのぼのと水浴。カルガモの姿はたまに見かけますが、同時に7羽はこれまでの最高記録。

平成22年7月某日夕刻　梅雨明け前の重い空の下、中央棟から北棟にかけての屋上の柵に、両手に余る数のカラスがずらりと勢ぞろい。何やら不吉感を醸す光景でしたが、別に何事も起こらず、やがて日の傾きにつれ三々五々各所に散っていつもの無人無鳥の屋上に。

富士山と所沢の意外な関係

ふるさと研究市民トピック vol. 13

７月１日は富士山の山開きです。富士山は霊峰として古くから人びとの信仰の対象とされ、またわが国を代表する名山であることから山頂を訪れる人の数は他を圧倒し、今日では毎年 20 万人以上にのぼっています。

富士山には気象観測の歴史があります。かつては山頂の象徴的な風景でもあり、その役目を終え平成 13 年に撤去された富士山レーダーは、測候所とともに日本の気象観測上重要な施設でした。

富士山測候所は、昭和 2 年（1927）に建設された私設の観測所「佐藤小屋」が前身です。その建設は、三ヶ島村（現所沢市）出身の実業家鈴木靖二（すずきやすじ）の出資により実現しました。

富士山測候所勤務の経験を持つ新田次郎は、小説『凍傷』で、冬期観測を克服し国の予算づけを目指しつつ、私設観測所の建設と観測に取り組む「佐藤小屋」の創始者、佐藤順一の姿を描いています。富士山に観測所を設置する必要性については当時の皇族山階宮（やましなのみや）が理解を示し、鈴木靖二が出資に手をあげたのでした。

鈴木靖二は、大正時代に五反田で東京自動車学校を開校するなど、実業家として知られていました。その事績は、昭和 33 年三ヶ島小学校に建てられた顕彰碑で多少追うことができますが、生い立ちやひととなりなど、詳しいことはまだ明らかでないのが現状です。

※『凍傷』は新潮文庫『強力伝・孤島』に収録されています

所沢市生涯学習推進センター　ふるさと研究グループ
Tel:04-2991-0308　Fax:04-2991-0309　Mail:b29910308@city.tokorozawa.saitama.jp